

〔論文〕

A 県妊産婦の産前産後ケアのニーズ調査（第2報）

－初産婦と経産婦の比較から－

高橋 佳子 玉熊 和子 外 千夏

Key words：産前産後ケア、初産婦、経産婦、ニーズ調査、出産後の母親の悩み

I. はじめに

近年の少子化・核家族化・妊婦の高齢化・出産施設における入院の短縮化等に伴い、子育てに不安を抱く母親が増加し、産後うつや虐待の問題も深刻化してきた。このような状況の中、母親たちが安心して出産・子育てができ、すべての子どもが健やかに育つことができるための対策として、妊娠・出産包括支援事業による産前産後サポート事業や産後ケア事業、2020年度末までを目標とした子育て世代包括支援センター設置計画など、包括的な子育て支援のシステム作りが少しずつ構築されてきた（第1報¹⁾。「ニッポン一億総活躍プラン」の中でも「夢をつむぐ子育て支援」が大きな三つの矢の一つとなっており²⁾、子育て支援体制のますますの拡充と充実が望まれる。

しかし、このような全国的な動き・機運に比し、A 県においては、B 町での母子の家庭訪問（アウトリーチ型）・C 市での母子の家庭訪問と

産後デイケア（アウトリーチ型とデイケア型）の実施にとどまっている現状である（現在計画中のものは除く）。そこで筆者らは、A 県内における「切れ目のない妊産婦・乳幼児への保健対策」の進展と県内の現状に合わせた産前産後ケアシステムの構築を図ることを目的に研究することとした。

「産前産後ケアシステム」に関連する研究の動向については、当該研究の一環で行った文献検討で報告した³⁾。産前ケアについては、現在期待されている産前ケア事業に関するものは皆無、産後ケア事業については5件のみであり、更に今後の研究が必要であることが確認された。「産後ケア」については、2005年～2015年の原著論文で493件検出されたが、島田⁴⁾の「産後ケア」の定義¹に基づき抽出されたのは44件であった。そのうち支援に対するニーズについて報告されたものは14件であった。坂梨ら⁵⁾は、4か月未満の乳児を持つ母親516名への順序型の

i 産後ケア：島田（2016）は安全に質の高い産後ケア事業を全国に推進していくことを考慮し「産後ケア」を以下のように定義した。「分娩施設退院後から最大産後4か月の間に、病院・診療所または助産院、産後ケアセンター、あるいは利用者の自宅で、助産師をはじめとする看護職者が、産後の母児とその家族に対し、母親の心身の回復を促進し、母親が自立して育児ができるようになることを目的に、母親の身体的な回復を配慮したケアを実施しながら、授乳がうまくできるための具体的支援をし、児の状況に応じた育児指導を行う。さらに、パースレビューなどの心理的ケアや夫、上の子、身近な支援者との関係調整を行う。加えて、地域で育児をしていく際に必要な関係諸機関との連絡、必要な社会資源の紹介なども行う一連の支援である」

回答法から、支援形態の選好は、「外来受診」「助産師による訪問看護」「産後ケア施設」の順であり、支援内容の選好は、「生活・育児・授乳指導」「母体の休養・養生」「新生児の観察・ケア」の順で、経産婦は「母体の休養・養生」が1位であったと、報告していた。小松崎ら⁶⁾は、産後ケアの利用者の半分以上が35歳以上で、第1子が8割、核家族が多く、出産後60日までは休息のケアや具体的な育児技術指導がなされ、60日以降は身体的疲労と精神的状態に不安があるものが増加する傾向がみられたことを報告していた。

また、支援に対するニーズの動機づけともなる、産後の母親の困ったこと・悩み・相談したいこと等について、早川ら⁷⁾は、妊産婦264名から出産後の「気になること／困ったこと」についての回答を得、「傷の痛みなど出産後の身体の変化に関すること」、「運動や清潔など日常生活に関すること」「授乳に関すること」、「哺乳量など育児に関すること」、「夜泣きなど新生児の特徴に関すること」が多かったと報告していた。鈴木⁸⁾は、産後2週間ごろの約20%の母親が「孤独感」や「理由のわからないこと」で「悩んだり、いらいらした」と回答していたと報告し、この時期から精神科医等の介入が必要な母親の存在を指摘していた。羽澤ら⁹⁾は1か月健診に来院した褥婦への調査により、「産後1か月間で不安や疑問、相談したいことがあった褥婦は初産婦が7割、経産婦が6割あった」こと、「産後1か月間の不安や疑問、相談したいことで多かったのは、『母乳やミルクが足りているかわからない』『兄の皮膚のこと』であった」と報告していた。先行研究はすべてA県以外で調査されたものであり、A県における産前産後ケアに関するニーズおよび産後の母親の困ったことや悩み等についての報告は皆無であった。

そこで、県内の現状に合わせた産前産後ケアシステムの構築を図ることを目的に、A県内における産前産後ケアに対する妊産婦のニーズ

調査を実施することとした。第1報では、A県内の妊産婦の産前産後ケアサービスの利用希望や支払可能額について、A県在住妊産婦（以下、県内妊産婦）と里帰り妊産婦と比較して報告した。年収幅、支払い可能額について、里帰り妊産婦と有意差が認められた。産前ケアの希望には初産婦であることと年収が、産後ケアには年収が影響していた。本報では、A県内における産前産後ケアシステムに関する具体的課題を得ることを目的に、県内妊産婦の産前産後ケアの利用希望、および、産後の悩みなどについて、初産婦と経産婦の違いを把握することとした。

II. 研究目的

県内妊産婦の産前産後ケアの利用希望、および、産後の悩みなどについて、初産婦と経産婦の違いを把握し、A県内における産前産後ケアシステムに関する課題を得ることを目的とした。

III. 方法

1. 対象

A県5市の産科施設計10施設にて、産後1か月健診を受診した母親（20歳以上）計1500人であった。

2. 期間

平成28年9月中旬～平成29年5月末日までとした。

3. 方法

産後1ヵ月健診終了時（母子健康手帳返却時）に、助産師または看護師から無記名自記式質問紙等（依頼文、産前産後ケア説明用リーフレット、返信用切手貼付済み封筒含む）を配布してもらう間接配布法とし、郵送にて回収した。

説明用リーフレット（A4サイズ1枚三つ折り）は、産前産後ケアについて回答者がイメージできることを目的に添付し、産前産後ケアの説明・各サービスの提供場所や種類・他県で開催されている産前産後ケアの価格例を示した。

4. 内容

調査内容は、①対象者の属性（年齢、就労の有無、産後日数、出産回数、家族構成など）、②年収、③妊娠中・出産後のケア（母乳指導、育児相談、新生児のお世話、産後デイケア、産後の助産師による家庭訪問など）の利用希望があるか、④妊娠中や出産後に利用してみたいケアやサービス、⑤困っていること・悩んでいること・相談したいこと等についてであった。

5. 分析

統計処理には、SPSSver.24を用い、単純集計、 χ^2 検定、Mann - Whitney 検定を実施し、県内妊産婦の産前産後に関するニーズを初産婦と経産婦とで比較した。記述式の回答については、質問に関する意味ある単語・センテンスを抽出し、類似性のあるものを分類し集計した。

6. 倫理的配慮

本研究は、青森中央学院大学研究倫理委員会の承認を得て実施した。

対象者には、①研究目的・方法等、②研究協力の任意性、③利用施設との関連性、④個人情報保護、⑤調査に関する問い合わせ先等について文書に示し、助産師・看護師から配布した。

なお、自記式質問紙の作成においては、対象者の育児や回答の負担とならないよう、質問項目を吟味して最小限にした。調査依頼文には本

調査が利用している産科施設と無関係であり、協力の有無にかかわらず受ける看護援助等には支障がないことを明記した。

質問紙の配布に際しては、調査協力施設長を通じて、配布時の説明内容（研究依頼先、回答所要時間、返送方法）および留意事項（20歳以上を対象とすること、調査への協力を強制しないこと等）を文書で示し依頼した。

IV. 結果

1. 回収率および分析対象

回収数は473部、回収率は31.5%であり、有効回答率は84.6%（400部）であった。

分析対象となった県内妊産婦は322人であり、初産婦が145人（45.0%）、経産婦が177人（55.0%）であった。

2. 対象属性

主な対象属性は、表1に示すように、初産婦の平均年齢が31.2（±4.8）歳、経産婦が32.3（±3.7）歳と有意差が見られた（ $P=0.013$ ）が、産後日数や有職率に差はみられなかった。有職率は、初産婦69.0%、経産婦70.1%であった。

表 2 対象属性（n=322）

平均±標準偏差（最小値-最大値）

	初産婦 (n=145)	経産婦 (n=177)	p 値
年齢(歳) ※1	31.2±4.8 (21-43)	32.3±3.7 (23-42)	0.013
産後日数(日) ※1	39.5±11.3 (25-115)	39.5±10.8 (29-100)	0.974
職業 ※2			0.832
無職(主婦)	45(31.0%)	53(29.9%)	
有職(常勤・非常勤・自営業)	100(69.0%)	124(70.1%)	

※1: Mann-Whitney の U 検定、※2: χ^2 検定

3. 年収の比較

初産婦と経産婦の年収（本人とパートナーの合計）を比較したものを、図1に示す。初産婦・

経産婦とも同様の傾向を示し、一番多い年収幅は「300－400万円未満」であり、初産婦20.7%、経産婦25.4%であった。

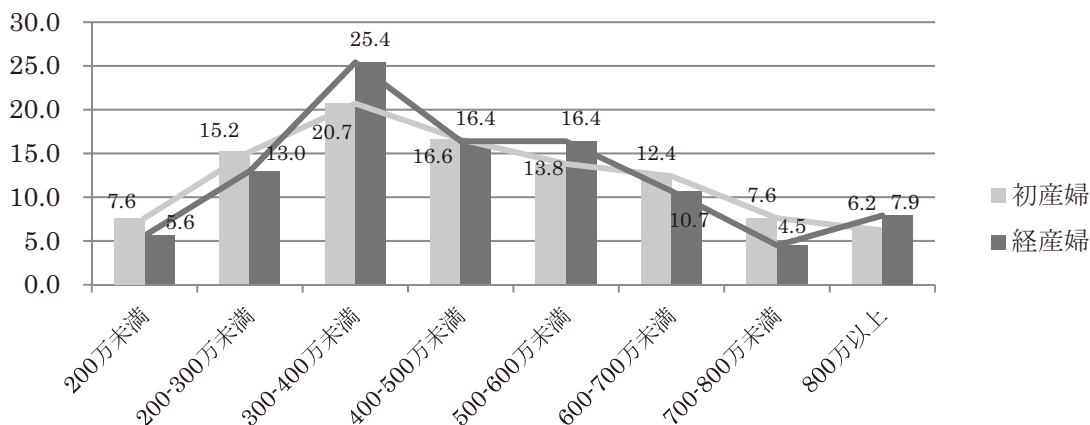


図1 県内妊産婦の初産婦と経産婦の年収

※Mann-Whitney の U 検定 $p = 0.974$

4. 産前産後ケアの希望について

1) 産前ケアの希望と支払可能額

いずれか一つでも産前ケアについて希望したものの割合は、初産婦85.5%、経産婦75.1%であり、初産婦で希望する者の割合が有意に多かった ($p=0.021$)。

各産前ケアの希望について初産婦と経産婦を比較したものを、表2に示す。「赤ちゃんのお世話」の希望は初産婦52.4%、経産婦23.2%であり、初産婦の希望が有意に多く ($P=0.000$)、「母乳指導」については初産婦55.9%、経産婦39.0% ($P=0.003$)、「育児相談」は初産婦52.4%、経産婦35.6% ($P=0.002$) と、初産婦の方が経産婦より有意に希望が多かった。「エクササイズ」については、初産婦63.4%、経産婦57.6%と双方とも希望が6割前後みられ、選択肢の中で一番希望が多かった。

2) 産後ケアの希望について

いずれか一つでも産後ケアについて希望したものの割合は、初産婦85.5%、経産婦80.8%であり、差は見られなかった ($p=0.262$)。

各産後ケアの希望について初産婦と経産婦を

比較したものを、表3に示す。「赤ちゃんのお世話」の希望が初産婦43.4%、経産婦21.5%であり、初産婦の希望が有意に多く ($P=0.000$)、「産後デイケア」については初産婦51.7%、経産婦38.4% ($P=0.017$)、「家庭訪問」は初産婦60.0%、経産婦37.3% ($P=0.000$) と、初産婦の方が経産婦より有意に希望が多かった。「母乳指導」と「エクササイズ」については、初産婦と経産婦双方が5～6割希望していた。「産後宿泊施設の利用」は初産婦24.8%、経産婦27.1%であった。

表 2 産前ケアの希望

希望したサービス		n	%	p 値
<u>赤ちゃんのお世話</u>	初産	76	52.4	<u>0.000</u>
	経産	41	23.2	
<u>母乳指導</u>	初産	81	55.9	<u>0.003</u>
	経産	69	39.0	
エクササイズ	初産	92	63.4	0.288
	経産	102	57.6	
栄養指導	初産	57	39.3	0.223
	経産	58	32.8	
<u>育児相談</u>	初産	76	52.4	<u>0.002</u>
	経産	63	35.6	

※ χ^2 検定

表 3 産後ケアの希望

希望したサービス		n	%	p 値
<u>赤ちゃんのお世話</u>	初産	63	43.4	<u>0.000</u>
	経産	38	21.5	
母乳指導	初産	88	60.7	0.077
	経産	90	50.8	
エクササイズ	初産	87	60.0	0.934
	経産	107	60.5	
<u>産後デイケア</u>	初産	75	51.7	<u>0.017</u>
	経産	68	38.4	
産後宿泊施設	初産	36	24.8	0.641
	経産	48	27.1	
<u>家庭訪問</u>	初産	87	60.0	<u>0.000</u>
	経産	66	37.3	

※ χ^2 検定

5. 妊娠中や出産後に利用してみたいケアやサービスについて

上述の産前ケアおよび産後ケアの希望の有無は、先行研究を参考に筆者らが想定したケアサービスの内容を選択肢にあげ、それぞれの希望の有無を回答してもらい集計したものであ

る。それ以外の希望、または強い希望などを抽出するため、「妊娠中や出産後に利用してみたいケアやサービス」について記述式でも質問した。回答したものは、初産婦66名（45.5%）、経産婦85名（48.0%）であった。回答を分類したものを表4に示す。

表4 妊娠中や出産後に利用してみたいケアやサービス（枠内人数）

		初産婦 n=66		経産婦 n=85	
母体ケア エクササイズ コンディショニング	エクササイズ	34	8	58	11
	マッサージ		6		11
	マタニティヨガ		5		6
	ママヨガ		5		3
	ヨガ		1		2
	骨盤ケア		5		13
	マタニティピクス		0		3
	その他		7		6
母乳育児指導・乳房ケア		12		13	
育児相談		12		6	
食事・離乳食	妊産婦の食事	10	4	6	2
	離乳食		3		3
	食事援助		3		1
訪問サービス	助産師の訪問	7	4	11	5
	ヘルパー		3		6
デイケア・一時預かり		6		12	
ママ友づくり・情報交換の場		5		5	
ベビーマッサージ		5		7	
宿泊サービス		3		6	
その他		11		18	

回答したものの中で、一番記述が多かったケアは、「エクササイズやマッサージなど母体ケア」であり、初産婦は66名中34名（51.5%）、経産婦は85名中58名（68.2%）が希望していた。次に共通して多かったケアは「母乳育児指導・乳房ケア」であり、初産婦は12名（18.2%）、経産婦は13名（15.3%）が希望していた。

6. 困っていること・悩んでいること・相談したいことについて

困っていること・悩んでいること・相談したいことについて、記述式にて質問したところ、初産婦47名（32.4%）、経産婦48名（27.1%）から回答を得た。回答内容を分類したものを表5に示す。初産婦の回答で多かった内容は、「母乳に関すること」が17名（36.2%）、「子どものこと」が10名（21.3%）、「情報交換の場について」が8名（17%）であった。経産婦の回答で多かつ

た内容は、「保育・家事のサポートについて」と「上の子との関係」がそれぞれ10名（20.8%）、「母乳に関すること」が7名（14.6%）であった。

IV 考察

1. 産前ケアのニーズについて

県内妊産婦は初産・経産婦共に、7～8割が何らかの産前および産後ケアを希望しており、A県内における産前産後ケアシステムの整備が急務であることが明らかとなった。特に産前ケアの希望は、初産婦に多くみられた（85.5%）。経産婦に比べて希望が多かった産前ケアは、「赤ちゃんのお世話」「母乳指導」「育児相談」であった。出産後約1か月時点での調査であることを考えると、実際の子育てに苦勞し、「もっと妊娠中に詳しく学習・相談しておきたかった」と実感したことが、5～6割の回答につながったと推察される。初めての慣れない育児は不安や

表5 困っていること・悩んでいること・相談したいこと（枠内人数）

	初産婦 n=47	経産婦 n=48
母乳に関すること	17	7
子どものこと	10	2
情報交換の場について	8	0
保育・家事のサポートについて	4	10
サービスが少ない	3	0
外出しづらい	2	2
看護者により言うことが違う	2	1
行政への要望	1	4
身体のこと	1	5
遊び場のこと	1	3
上の子との関係	0	10
訪問サービス	0	3
その他	9	9

ストレスの原因となる。妊娠期から産後の過ごし方や子育てにわたる知識・情報を得ることは、落ち着いて子育てをし、良好な母子関係を育むために重要である。また、初産婦よりは希望は少なかったとはいえ、75.1%の経産婦も何らかの産前ケアを希望していた。産科施設や市町村においても母親学級など出産前準備教育は提供されているが、初産・経産問わず、妊産婦それぞれの個別のニーズに対応できる場が必要と思われる。

2. 産後ケアのニーズについて

産後のケアについては、「赤ちゃんのお世話」「デイケア」「家庭訪問」において、経産婦に比べて初産婦の希望が多かった。調査時点（産後約1か月）で正に初めての育児に苦労していることが、5～6割の初産婦がデイケアや家庭訪問を活用して赤ちゃんのお世話や相談への希望につながったと推察される。

「母乳指導」と「エクササイズ」は、初産婦と経産婦双方が5～6割希望していた。経産婦は「赤ちゃんのお世話」については経験があるため、希望は多くないが、「母乳指導」が初産婦と同程度に希望がみられたことは、前回の母

乳育児の経験の有無、前回と今回の母乳分泌の違い、上の子を育てながらの母乳育児の継続など、前回とは違った様々な状況によるものと推察される。「エクササイズ」においては、初産・経産婦共に産前・産後とも6割前後の希望があり、初産婦の産後（母乳に次いで2位）以外は最も希望が高かった。「妊娠中や出産後に利用してみたいケア」の記述からも、エクササイズや骨盤ケアなど母体ケアの希望が多いことが認められた。エクササイズの意義については第1報¹⁰⁾で述べたが、身体的効果のみでおさまらないたくさん効果がある。横手¹¹⁾は、産後ケア・育児支援としてのエクササイズの活用について報告している。エクササイズ等母体ケアは、進め方により、母体の心身の調子が整えられるだけでなく、児とのふれあいの機会や子育て・母乳等について相談ができるなど、育児支援にもつながる。妊産婦のニーズ、その効果を考えると、更に拡充していく価値あるものであると考える。

以上のことから、「赤ちゃんのお世話」や「母乳指導」とともに、「エクササイズ等母体ケア」など気軽に利用できる場を充実させること、デ

イケアや家庭訪問などの整備、そして、それらのケアの活用について相談できる場を作ることが望まれる。

3. 記述式の回答からの考察

利用したい産前産後ケアについて、選択式だけでなく「妊娠中や出産後に利用してみたいケア」について記述してもらったことにより、求めるものの詳細を把握することができた(表4)。特に「エクササイズ」の希望は選択式でも初産・経産とも一番多かったが、妊娠期のものから産後のもの、有酸素運動系のものからヨガなど多様な希望があり、また骨盤ケアやマッサージなどコンディショニング的な母体ケアの希望も多いことが把握できた。また、訪問サービスをみると、助産師の訪問とヘルパーと半々の希望となっており、専門家による支援サービスと、家事などのヘルパーの双方にニーズがあることが把握された。支援内容を検討する際、これらの具体的ニーズを踏まえていくことが望まれる。

困っていること・悩んでいること・相談したいことへの回答からは、初産婦の上位3つが「母乳に関すること」「子どものこと」「情報交換の場について」であり、経産婦は「保育・家事のサポート」「上の子との関係」「母乳に関すること」とそれぞれの特徴を把握することができた。前述までの産前ケア・産後ケアにおける初産婦と経産婦のニーズの特徴も統合すると、初産婦は、妊娠期から「赤ちゃんのお世話」「母乳育児指導」「育児相談」など、産後の子育てにわたる知識・情報を得ること、産後は「産後デイクア」や「家庭訪問」など専門的なサポートや助言、同じように子育てをする仲間を作る機会を求めていると推察された。同じように経産婦については、上の子を含めた育児に苦勞し、人的なサポート（「デイクア・一時預かり」等）や疲労した身体を回復・リフレッシュさせるための「エクササイズ」等のサービスを求めているという特徴が推察された。

困りごとや悩みが解消され、快適に産後を過

ごし、楽しく子育てができるためには、以上のような初産婦と経産婦のニーズの違いにも留意し、産前産後ケアシステムを整備していくことが重要である。

V 結論

A 県内妊産婦への産前産後ケアのニーズ調査結果より、以下のことが明らかとなった。

1. 県内妊産婦は初産・経産婦共に、7～8割が何らかの産前および産後ケアを希望していた。
2. 産前ケアの希望は、経産婦に比べて初産婦に多くみられた（85.5%）。経産婦に比べて初産婦に希望が多かった産前ケアは、「赤ちゃんのお世話」「母乳指導」「育児相談」であった（5～6割）。
3. 産後のケアについては、「赤ちゃんのお世話」「デイクア」「家庭訪問」において、経産婦に比べて初産婦の希望（4～6割）が多かった。「母乳指導」と「エクササイズ」は、初産婦と経産婦双方が5～6割希望していた。
4. 「エクササイズ」は、産前・産後ともに、初産・経産婦に共通して6割前後の希望があり、初産婦の産後（母乳に次いで2位）以外は最も希望が高かった。
5. 困っていること・悩んでいること・相談したいことは、初産婦の上位3つが「母乳に関すること」「子どものこと」「情報交換の場について」であり、経産婦は「保育・家事のサポート」「上の子との関係」「母乳に関すること」とそれぞれの特徴がみられた。
6. 以上の A 県内妊産婦のニーズを踏まえ、気軽に利用できる場を充実させること、デイクアや家庭訪問などの整備、そして、それらのケアの活用について相談できる場を作ることが必要である。

謝辞

本調査の実施においてご理解ご協力いただき

た A 県内の産科施設の施設長および助産師・看護師の皆様、ご回答いただいた多くの妊産婦の皆様にご心からお礼申し上げます。

なお、本調査は、平成28年度青森中央学院大学共通研究費助成による「青森県における産前産後ケアシステムの構築」研究の一部として実施いたしました。

本稿の一部は、第32回日本助産学会学術集会(2018.3)にて発表いたしました。

VI 文献

- 1) 玉熊和子, 高橋佳子, 外千夏: A 県妊産婦の産前産後ケアのニーズ調査 (第1報), 青森中央学院大学研究紀要, 第29号, 2018.
- 2) 厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 母子保健課: 母子保健の動向と助産師の役割
www.zenjomid.org/activities/img/2017sokai_seminar3.pdf
- 3) 玉熊和子, 高橋佳子, 外千夏: 先行文献からみた「助産師」を取り巻く動向と今後の課題, 青森中央学院大学研究紀要, 第27号, 2017.
- 4) 島田真理恵: 平成27年度 子ども・子育て支援推進調査事業「より効果的な妊娠出産包括支援事業としての産後ケアのあり方に関する研究」研究結果の概要, 助産師, 70 (3): 11-14, 2016.
- 5) 坂梨薫, 勝川由美, 水野祥子 他: 産後退院後の母親が望む支援 4 ヶ月未満の乳児をもつ母親の選好から, 関東学院大学看護学会誌, 1巻1号, 16-24, 2014.
- 6) 小松崎愛美, 齋藤泰子, 小山千秋 他: 産後ケア事業の評価 利用時期別のケアニーズ, 武蔵野大学看護学部紀要, 8号, 63-68, 2014.
- 7) 早川有子, 小林和成, トルマ千恵 他: 妊・産・褥婦の妊娠・出産・育児に関して気になること、困ったことの実態 妊娠から新生児期までの教材開発にむけての基礎調査, 群馬パース大学紀要, 9号, 25-31, 2010.
- 8) 鈴木俊治: 臨床経験 産後2週間ごろの母親の悩み等に関する検討 周産期メンタルヘルスの視点から, 臨床婦人科産科, 71 (11): 1107-1111, 2017.
- 9) 羽澤内裕, 佐藤愛: 産後1 ヶ月間の褥婦の不安と電子メール相談のニーズ調査, 盛岡赤十字病院紀要, 25 (1): 132-139, 2016.
- 10) 再掲 1)
- 11) 横手直美: いま知りたい! 産後ケア・育児支援としてのエクササイズの活用, 助産雑誌, 70 (8): 640-645, 2016.

(青森中央学院大学 看護学部 准教授 たかはし よしこ)

(青森中央学院大学 看護学部 准教授 たまくま かずこ)

(青森中央学院大学 看護学部 助手 ほか ちなつ)